

## 令和4年度実施事業 課題対応取組み一覧表

【地域包括支援センター】

区名	包括名	カテゴリー	活動テーマ
北区	北区	地域や専門職とのつながり等	我が事・丸ごとの地域づくり(権利擁護編) ～包括周知活動より認知症高齢者が潜在化する前にできることを考える～
	大淀	地域や専門職とのつながり等	地域課題の早期発見・早期対応に向けた身近なネットワークづくり
都島区	都島区	地域や専門職とのつながり等	認知症と精神疾患を抱える方に対する支援について学ぶ ～支援者の思いが共有できる場づくりをしよう～
	北部	自立支援・介護予防等	健活測定会
福島区	福島区	地域や専門職とのつながり等	出張相談会の新たな展開と顔の見える関係づくり
此花区	此花区	自立支援・介護予防等	男性の介護予防講座の継続開催
	南西部	その他	多機関連携の推進 ～専門相談機関相談員勉強会の継続実施と深化～
中央区	中央区	地域や専門職とのつながり等	ケアマネジャーの個別支援力の向上に向けた取り組み
		地域や専門職とのつながり等	問題の早期発見・相談に必要な地域包括支援センターの周知啓発
	北部	地域や専門職とのつながり等	ケアマネジャーの個別支援力の向上に向けた取り組み
		地域や専門職とのつながり等	マンション(集合住宅)単位での出前講座の実施
西区	西区	地域や専門職とのつながり等	支援を拒否する高齢者を支えるネットワーク作り
港区	港区	認知症高齢者等の支援	認知症高齢者等を地域で支えるネットワークづくり
	南部	地域や専門職とのつながり等	関係者が協働で本人を支える「地域包括ケア」の実現
大正区	大正区	地域や専門職とのつながり等	コロナ禍により薄れたつながりを再構築し、地域の「気づき」を受け止める関係づくりをめざして
	北部	地域や専門職とのつながり等	地域包括支援センターの周知活動を通じた、ネットワーク構築の取り組み
天王寺区	天王寺区	地域や専門職とのつながり等	高齢者を支える支援ネットワークの構築
浪速区	浪速区	地域や専門職とのつながり等	元気うちから人と人とのつながりづくり ～孤立防止～
西淀川区	西淀川区	自立支援・介護予防等	オーラルフレイル・フレイルへの気づきから、セルフケアへのモチベーションアップへ
	南西部	地域や専門職とのつながり等	感染拡大により外出を控える地域住民に向けて、感染予防を図りながら「できること」に焦点を絞り、地域の人と直接話ができる場をつくり地域住民の生活・暮らしを知る。(公園魅力みつけ隊など)
淀川区	淀川区	地域や専門職とのつながり等	我がごと！丸ごと！地域ごと！～「助けて」を取りこぼさない地域づくり～
	東部	地域や専門職とのつながり等	高齢者が地域で安心して生活できる「やさしい街づくり」 ～早期に相談できる身近な総合相談窓口をめざして～
	西部	地域や専門職とのつながり等	関係機関が身近に感じられる関係づくり ～早期対応・早期支援を目指して～
	南部	地域や専門職とのつながり等	世代を越えて！つながる地域づくり
東淀川区	東淀川区	地域や専門職とのつながり等	介護サービスと地域活動の連続性の確保
	北部	認知症高齢者等の支援	必要な支援はこぼさない！ ～“誰もが”“どこかで”“つながっている”地域をめざして～
	南西部	地域や専門職とのつながり等	地域の中で起きている孤立や社会的排除の課題に対して、実態を明らかにし、繋がり先である事を知ってもらう。
	中部	認知症高齢者等の支援	認知症や支援を必要とする高齢者を早期発見、早期対応ができる支援ネットワーク構築
自立支援・介護予防等		地域と取り組む介護予防	
東成区	南部	地域や専門職とのつながり等	支援を必要とする高齢者の早期発見、対応への取り組み
	北部	認知症高齢者等の支援	認知症の啓発(予防含む)と判断能力が低下した際の選択肢としてのあんしんさぼーと事業の啓発
生野区	生野区	自立支援・介護予防等	声かけて優しくつながるまち作り
	東生野	地域や専門職とのつながり等	一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創る ～安心・安全に住み続けられる地域共生のまちづくり～
	鶴橋	社会資源の創設	男性高齢者の居場所作りを目指す
	巽	自立支援・介護予防等	地域や各専門機関との連携強化を進めるとともに、 コロナ禍における新しい課題やニーズの掘り起こしを行う

【地域包括支援センター】

区名	包括名	カテゴリー	活動テーマ
旭区	旭区	認知症高齢者等の支援	認知症等高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるように
	西部	認知症高齢者等の支援	一つ一つの相談に丁寧かつスピードを高めて対応する ～寄り添う・支える精神の醸成～
	東部	認知症高齢者等の支援	WAになって手をどうろう！
城東区	城東区	地域や専門職とのつながり等	我がごととして考え、地域住民と専門職がつながりあえるまちづくり
	城東・放出	地域や専門職とのつながり等	アフターコロナの時代に応じた新たな地域福祉・ネットワークの構築
	城陽	認知症高齢者等の支援	早期発見・介入と各支援機関の円滑な連携体制の構築
	董・鯉江東	地域や専門職とのつながり等	早期に相談に繋がる体制構築と関係機関の連携強化による対応力の向上
鶴見区	鶴見区	地域や専門職とのつながり等	課題の早期発見・見守りのための小地域ケア会議(3年度より継続)
	西部	認知症高齢者等の支援	せいぶカフェ(オンラインでつながるカフェ)
	南部	地域や専門職とのつながり等	広げよう！支え愛・南の輪
阿倍野区	阿倍野区	社会資源の創設	チャレンジ！「誰にでも優しいまちづくり」(支えられる人も支える人も)PART3
	北部	地域や専門職とのつながり等	地域、関係機関との顔のみえる関係づくりと周知活動の強化
	中部	地域や専門職とのつながり等	つながる・つなげる地域づくり
住之江区	住之江区	地域や専門職とのつながり等	地域と介護サービス事業所のつながりづくり ～相互理解とそれぞれの強みを活かした連携に向けて～
	さきしま	地域や専門職とのつながり等	認知症になっても住みやすい町づくりに向けて
	安立・敷津浦	自立支援・介護予防等	生活不活発病からの脱却 ～健康活動応援プロジェクトの取り組み～
		地域や専門職とのつながり等	火災から命を救う消防署との取り組み
加賀屋・粉浜	社会資源の創設	気軽に相談できる場や孤立しない繋がりがづくり	
住吉区	住吉区	地域や専門職とのつながり等	気軽に相談できるセンターをめざした出張相談会の実施 助けられる人(高齢者)も参加できる・役割をもつことができる地域へ
	北	自立支援・介護予防等	高齢者やその家族、地域住民へ介護や福祉に関する情報を伝える
	東	地域や専門職とのつながり等	社会的孤立をなくす地域住民との気づきの共有
	西	地域や専門職とのつながり等	長期化するコロナ禍を踏まえた関係機関と連携した新たなアウトリーチ
東住吉区	東住吉区	地域や専門職とのつながり等	地域活動者と福祉専門職による、重層的な見守り・支援の継続と、「助けられ上手」に向けた、高齢者や地域ボランティアへの啓発活動
	矢田	地域や専門職とのつながり等	地域における見守りネットワークの構築
	中野	認知症高齢者等の支援	認知症になっても住みよいまちづくり ～地域特性を活かして～
	東住吉北	地域や専門職とのつながり等	相談に繋がりが易い仕組み作り(地域、事業所との連携具体化)
平野区	平野区	自立支援・介護予防等	認知症の方を地域で支える体制づくり
	加美	地域や専門職とのつながり等	地域のよろず相談窓口としての活動 withコロナ
	長吉	地域や専門職とのつながり等	制度の垣根を越えて様々な専門職と地域支援関係者がつながる場作り
	瓜破	地域や専門職とのつながり等	「当事者意識」をテーマとした地域住民への認知症啓発活動
	喜連	地域や専門職とのつながり等	相談窓口の新たな周知方法と早期に支援につなげることができる環境づくり
西成区	西成区	社会資源の創設	ケアマネジャーへの支援を通じた地域連携～ケアマネカフェの開催～
	玉出	地域や専門職とのつながり等	「生きる事とは会うこと」～つながる、元気になるまちづくり～
	北西部	地域や専門職とのつながり等	気配り・目配り・心配り 第2弾 (相談につながりやすい仕組みづくり)
	東部	地域や専門職とのつながり等	気になる高齢者や世帯の支援(地域ぐるみの助け合い)とコロナ禍における取り組み

# 課題対応取組み報告書

名称	北区地域包括支援センター
提出日	令和 5 年 5 月 31 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ( )	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 (居場所づくり等) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	我が事・丸ごとの地域づくり (権利擁護編) ～包括周知活動より認知症高齢者が潜在化する前にできることを考える～	
地域ケア会議から 見えてきた課題	<p>○規模の大小はあるものの、9割以上の区民が集合住宅に居住しているが、「住宅内に自治組織がない」もしくは「自治組織はあっても地域の自治会に未加入」のために情報がなく、地域関係者も把握できていない要援護高齢者が潜在化している。</p> <p>○高層マンションをはじめとする集合住宅ではオートロック等セキュリティが高く、プライバシーや個人情報への配慮により管理人や居住者が情報発信 (相談) をためらう傾向にあり、結果として早期介入が困難となっている。</p> <p>○コロナ禍で地域活動が休止になったり、介護サービスを抑制することにより、地域から孤立した高齢者が増えている。</p> <p>○ひとり暮らしや高齢者夫婦世帯が多く、介護が必要になったときに金銭管理ができなくなる方や、認知症による金銭トラブルが生じている方が多い。</p>	
対象	住民、マンション自治会、管理会社、民生委員・町会等地域関係者	
地域特性	<p>○住居はタワーマンションをはじめ、公団、市営住宅、ワンルームマンションと様々な形態はあるものの、集合住宅が9割を占めている。</p> <p>○古くからの住宅街は近隣とのつながりも深いですが、高層マンション等では近隣のみならず地域とのつながりも希薄であり、町会加入率も20%代となっている。</p> <p>○総合病院が6か所と多く、通院の利便性のため、また、子世帯との近居のために転入してくる高齢者も多い。</p>	
活動目標	<p>重点支援マンションへの個別アプローチを積み重ねることにより、潜在化した高齢者の早期発見・早期介入の地域ネットワーク構築を目指す。</p> <p>また、高齢者が元気なうちから認知症や介護が必要になることを自身の問題として考える機会を持ち、介護予防や権利擁護の意識を高める。</p>	
活動内容 (具体的取組み)	<p><b>1. 様々な情報発信ツールを活用した包括周知活動</b></p> <p>①公式YouTubeチャンネルを活用した周知活動 (毎月更新) 社会資源や介護知識、介護事業所の紹介等、様々なジャンルの情報を、多様な世代への周知も視野に入れ発信。包括で開催したイベントなど様々な取組みについても動画で紹介することにより、さらにわかりやすく情報発信でき、事業の参加勧奨の一手段となった。</p> <p>②包括だよりの定期発行 (年6回) 地域包括支援センター (以下「包括」という) の周知や情報提供を目的として定期的に発行。ICTの活用が難しい方が情報難民にならないよう配慮し、コロナ禍で閉じこもりがちな高齢者に対し様々な情報を発信するだけでなく、マンションアプローチ等の活動における『つながりづくりのツール』としても活用した。</p> <p><b>2. マンション個別アプローチ</b> 概ね2か月に1回の包括だよりの発行時に、管理人等との顔の見える関係作りのため、各マンションを訪問。管理人と情報交換を行ったり、周知チラシを持参し、掲示や配架を依頼した。周知活動の許可を得るため、管理組合や理事会への説明も行った。(延べアプローチ数：213回)</p> <p><b>3. 『北区私の記録帳』を活用した権利擁護に関する周知啓発講座の開催</b> 北区包括版エンディングノート『北区私の記録帳』を活用して権利擁護に関する啓発講座を開催。高齢者自身が元気なうちから我が事として認知症や介護が必要になることを考えるきっかけ作りを行い、支援が必要になった際に、早期に介入ができるよう働きかけた。また、マンションアプローチの一環として、マンションの管理組合等に終活セミナーの開催を提案。賛同頂けたマンションの集会所を利用して講座を開催した。</p>	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<p>○様々な情報発信ツールを作成することにより、広く周知活動を行うことができた。特にYouTubeチャンネルを活用した周知では、多世代への情報発信となり、相談件数増など一定の成果を得ることができた。</p> <p>○継続したマンションアプローチと広報・周知活動により、管理会社やマンション理事会等と連携した見守り体制づくりを進めることができた。</p> <p>○潜在化する要援護高齢者へのアプローチだけではなく、要援護高齢者になる前の元気な高齢者に対し、認知症や介護が必要になることを自身の問題として考える機会として終活セミナーを開催し、好評を得た。</p>	

<p>今後の課題</p>	<p>○見守り体制ができてきつあるマンション関係者とは引き続き有益な情報提供等で関係性を高めると共に、プライバシーへの配慮等により関係構築に至らないマンションにおいても、引き続き他のマンションでの成功事例を活用するなど丁寧に働きかけを積み重ねていくことにより、関係構築が図れるように努めることが重要である。</p> <p>○終活セミナーを開催する中で高齢者の権利意識も高まり、必要となる成年後見制度等についてさらに詳しく知りたいというニーズも把握できたため、今後は終活セミナーと成年後見制度活用講座等のシリーズでの開催も検討していきたい。</p>
<p>区地域包括支援センター 運営協議会開催日</p>	<p>令和5年7月18日（火）</p>
<p>専門性等の該当 (※該当個数は問わない)</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 地域性    <input checked="" type="checkbox"/> 継続性    <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性・拡張性    <input type="checkbox"/> 専門性    <input checked="" type="checkbox"/> 独自性</p>
<p>評価できる項目（特性） についてのコメント</p> <p>* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。</p>	<p>これまで数年にわたり取り組んできたマンション個別アプローチを定着させ、管理人との顔の見える関係づくりのためマンション訪問を継続実施。地道な活動により、高齢者に関する相談先として、包括が認識されるようになり、相談にもつながっている。周知活動のツールとして包括便りの定期発行や、前年に作成したエンディングノートを活用し終活セミナーをマンション管理組合へ提案、講座の開催も行った。公式YouTubeの配信も毎月更新を継続。これらの取組みが、地域性・継続性・浸透性・独自性のある活動として評価できる。</p> <p>今後も、これまでのノウハウを活かし、関係構築に至らなかったマンションへの働きかけも継続しつつ、周知活動の幅を広げられるよう期待する。</p>

# 課題対応取組み報告書

名称	北区大淀地域包括支援センター
提出日	令和 5 年 5 月 26 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ( )	<input checked="" type="checkbox"/> 社会資源の創設 (居場所づくり等) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	地域課題の早期発見・早期対応に向けた身近なネットワークづくり	
地域ケア会議から 見えてきた課題	①認知症、精神疾患の疑い、生活環境の悪化により、在宅生活が厳しい。 ②経済、金銭の問題があり、家族関係が希薄、キーパーソンがいない。 ③家族の高齢化により、老老介護、認知介護が増えている。夫婦ともに生活課題を抱える。 ④支援が必要な家族がいるケースが増えており、「8050問題」が表面化している。 ⑤精神疾患やその疑いのある方の支援が増えている。 ⑥コロナ禍により、地域活動が休止となっており、外出、交流、運動の機会が少なく、コロナフレイルが懸念されており、孤立しない取り組みが必要。	
対象	・地域関係者 (地域活動協議会・町会・民生委員・ネットワーク委員など) ・地域福祉コーディネーター・ケアマネジャー・認知症初期集中支援チーム (以下「オレンジチーム」という) ・在宅医療・介護連携支援コーディネーター・生活支援コーディネーター	
地域特性	東は都島区、西は福島区と東西に広く、地域性も多様である。 高齢化率は19%。圏域内の豊崎東、本庄、中津は20%を超えている。 高齢化率が高い地域は相談件数伸び率が高い傾向にある。 近年は、大型マンションの建設により、若年層の転入者が増えている。 若年層の転入により、母数が増えているため、高齢化率が下がっている地域もある。 圏域内の約8割がマンション、団地住民(市営住宅・UR賃貸住宅)である。 ひとり暮らし高齢者、夫婦のみの高齢世帯が増えている。 町会、民生委員、地域福祉コーディネーターが連携を図りながら、高齢者の見守り活動、居場所作りに積極的に力を入れている地域が多いのが特徴的である。 また、企業、大学、専門学校などつながりも深く、地域との連携、協働した取り組みが活発である。	
活動目標	①様々な課題を要する事例に関しては、迅速に地域ケア会議を開催。各機関との連携を強化していく。また、ケアマネジャーの後方支援として、課題に対する研修会や勉強会を開催し、知識の向上に努めていく。 ②小地域ケア会議を開催し、地区診断や地域課題を検討する場を設ける ③withコロナを念頭においた、地域活動を展開していく。 ④インフォーマル資源を活用した取り組みができるように、資源集の改訂を行うとともに、地域の情報を適宜発信していく。 ⑤4事業連携を深化していくためにも、協働した取り組みを計画し、実施していく。	
活動内容 (具体的取組み)	①地域ケア会議を積極的に活用している。関係機関と連携し、支援方針を策定し、役割分担を行って支援を行うことができた。地域ケア会議の振り返り、まとめの会議では、区役所、地域福祉コーディネーター、ケアマネジャー、北区見守り相談室、コミュニティソーシャルワーカー、北区在宅医療・介護連携支援相談室、北区生活支援コーディネーター、北区ハートフルオレンジチームに出席していただき、地域の課題を共有する機会を設けるなど各機関との連携を強化した。ケアマネジャーへの後方支援として、「エンドオブライフケア研修会」を3回シリーズで開催し、ターミナルケアや多職種連携グリーフケアに関する研修会を開催し、スキルアップに繋げる機会を作った。 ②豊崎東、豊崎、中津で小地域ケア会議を開催し、地区診断を報告、地域課題を検討するためにグループワークを実施した。 ③コロナフレイルへの対応、地域交流の場、孤立しない取り組みをテーマにWithコロナを念頭に、演奏会、ワークショップを開催。 ④ケアマネジャーへアンケートを実施。地域の知りたい情報を把握し、資源集の改訂を行った。 ⑤定例の連絡会を開催、掲示板用のリーフレット作成する。	

<p>成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)</p>	<p>①地域ケア会議を通して、多機関との連携強化、支援の円滑化に結び付けることができました。また、振り返りの会議において、地域課題を共有することで、次年度の取り組みについて積極的意見交換を行うことができました。ケアマネジャーへの研修会では、ターミナルケアを通して、多職種連携の課題、地域医療との連携を学ぶきっかけになった。</p> <p>②豊崎東地域では、地域課題として、新たな居場所作りが課題となっており、会議後、様々な専門職の協力のもとワークショップの開催を継続的に行うことができました。豊崎、中津地域では地域課題についてグループワークを行い、次年度に向けて、具体的な対応策を考えることができました。</p> <p>③演奏会(三線・オカリナ)はたくさんの方が来場され、満足度が高かった。ワークショップでは、男性、女性と分けてそれぞれのニーズに合わせて催しを実施している。</p> <p>④年々ブラッシュアップした資源集を作成することができ、ケアマネジャーの満足度が高い。</p> <p>⑤圏域内の診療所、歯科、薬局、マンション、市営住宅、UR賃貸機構、町会関係、サービス事業所に配布を行った。新たな周知活動を展開することができた。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>①地域ケア会議で対応した事例を振り返りを行う機会がなかった。</p> <p>②小地域ケア会議(豊崎・中津)から出てきた課題に対するアプローチを展開していく必要がある。</p> <p>③今後も各地域のニーズを把握しながら、講演会などを企画していく。</p> <p>④インフォーマル資源集から発信された情報をケアマネジメントの実践につなげていくように、ケアマネジャーへの後方支援が必要。</p> <p>⑤引き続き、広報、周知活動を継続していく必要がある。</p>
<p>※以下は、区運営協議会事務局にて記入</p>	
<p>区地域包括支援センター運営協議会開催日</p>	<p>令和5年7月18日(火)</p>
<p>専門性等の該当 (※該当個数は問わない)</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 地域性    <input checked="" type="checkbox"/> 継続性    <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性・拡張性    <input checked="" type="checkbox"/> 専門性    <input type="checkbox"/> 独自性</p>
<p>評価できる項目(特性)についてのコメント</p> <p>* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。</p>	<p>ネットワーク構築の取組みを経年的に実施しており、小地域ケア会議も長年継続的に行っている地域に加え新たな地域での開催により、地域関係機関との連携強化が図れている。新たな周知活動としては、掲示板用リーフレットを作成し、圏域内の医療機関やマンション、町会等に配布する取り組みや、コロナ禍で停滞していた地域交流を再開すべく、演奏会やワークショップを継続的に開催するなど、積極的な地域活動に取り組んでいる。これらの取り組みは、地域性・継続性・浸透性・専門性のある活動と評価できる。</p> <p>今後も、これまで築いてきたネットワークをより発展され、地域に根差した活動を期待する。</p>

# 課題対応取組み報告書

名称	都島区地域包括支援センター
提出日	令和 5 年 6 月 20 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ( )	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 (居場所づくり等) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	認知症と精神疾患を抱える方に対する支援について学ぶ ～支援者の思いが共有できる場づくりをしよう～	
地域ケア会議から 見えてきた課題	令和2年度の地域ケア会議の課題として、精神障がいを抱えている方や家族の支援について支援者が対応に苦慮していることがあった。これを受けて、令和3年度は「こころの支援を学ぶ会」として3回の講座を開催した。参加者全員は参加してよかったとの感想であったが、参加希望者が新型コロナウイルス感染症対応で参加できない、人数制限がある、具体的な支援方法を知らない、一人で考えるよりチームで考えることが重要、等の課題があった。 令和3年度の地域ケア会議の課題では、 ・精神疾患を持っている方が65歳以上となり、認知症の併発、金銭的トラブル等、課題が複合化している。 ・気軽に相談できる場所や精神疾患を抱える方への支援について学べる場があまりない。支援者が孤立している。	
対象	都島区の高齢者を支援している介護、福祉、医療の支援機関、地域の関係機関の支援者	
地域特性	都島区の南部。JR・京阪・大阪メトロの駅が複数あり梅田へのアクセスも良く、区役所や区民センター、警察署、消防署等の公共機関があり利便性が高い。南部は1号線が東西に通り交通量が多い。繁華街、雑居ビル、単身向けマンション、家族向け大型マンション、古くからの戸建てや長屋が混在する地域である。 徒歩圏内にスーパーがない地域があるが、全体的に商店街、商業施設、店舗、医療機関等が多い。長年住んでいる方が多く、転入もあるが、高齢者数は減少傾向にある。 新しいマンションが建つ一方、築40年1000世帯のうち6割が70歳以上の高齢者というマンションなど、住民の高齢化が進んだマンションや集合住宅が複数ある。	
活動目標	・精神疾患に関する理解を深められるようにする。困難ケースの傾向を把握する。 ・支援者の思いを把握する。支援者どうしが交流でき相談し合える関係づくりを促進する。	
活動内容 (具体的取組み)	令和4年7月14日 精神疾患を抱える方の支援で困難となった複数のケースから課題抽出のケア会議を開催。 支援困難となった要因を分析。 講師：栄セツコ氏 (桃山学院大学) 参加人数15名。 支援困難となった要因を分析するとともに、精神疾患の定義、精神疾患とメンタルヘルスが保たれていない状態はいまいであること、精神疾患は障がい固定化されておらず、また、見えない障がいであるためアセスメントが難しいことを学んだ。また、アセスメントのために、支援者自身が生活歴などの背景を確認し、対象者の生活のし辛さ、支援者側が問題としてとらえている行動を理解すること、一人ひとり異なる障がいに合わせ、対象者の世界に入れていただくことが重要であると学んだ。さらに、精神疾患は5大疾患に挙げられるほど一般的で数も多く今後も遭遇する機会が増えることが予測され、支援者自身のメンタルヘルスを保つために、支援者自身ができること (知識をつける、相談先を多く持つ等) を学んだ。  令和4年8月18日 「援助関係を作りにくい人への支援について」 第9回都島区介護事業者合同連絡会 (平成30年度から実施している介護職と地域支援者の交流の場)にて 講師：清水由香 (武庫川女子大学) 参加人数62名 (講師、30名はZOOM参加) 精神疾患を抱える方が支援困難な要因と精神疾患を抱える方への具体的な支援方法について共有した。個別の支援困難ケースに対しては地域ケア会議や精神保健福祉相談の活用を周知した。関係機関どうしの顔の見える関係づくりを通して連携強化を図るため多職種交流会を行った。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	アンケートでは87%の方が参加してよかったとの回答であった。主な意見として、「精神疾患のある方への支援について、関わり方・話の進め方が勉強できてよかった」「対話において否定せずゆっくりと話を聞く。問題解決を急がないことの重要性を知った」「問題に直面すると効率的に早く結論を出したいと思ってしまいがちになる。時間がかかってもいい、時間に耐えることが大事だとの視点が勉強になった」「支援者のペースで進めがちになるが、よりそいながら進めていこうにしたい」「複雑なケースについて、地域ケア会議や精神保健福祉相談などで支援チーム以外の意見を聴いたり一緒に検討したり相談すればよいことがわかった」「交流会で支援者どうしの仲間づくりができた」等であった。	
今後の課題	認知症や精神疾患などにより援助関係を作りにくい方は今後も増加し、支援は複雑化していくものと思われる。支援者の入れ替わりも多い職域であるので、今後も地域ケア会議や精神保健福祉相談などの個別相談・精神疾患困りごと共有部屋 (MSC) の案内や、多職種交流、支援者どうしの関係づくりを続ける必要がある。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 5年 7月 19日 (水)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性 <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性
評価できる項目 (特性) についてのコメント  * 今後の取組み継続に向けて、 区地域包括支援センター運営 協議会からの意見等を記載。	<p>令和2年度の地域ケア会議から見えてきた課題「認知症だけでなく精神疾患も抱える方、家族への支援の困難さ」に対して、令和3年度から継続して取り組んでおられる。</p> <p>令和3年度では相談できる場、知識や支援の考え方を深める一定の成果はみられたが、「3回通じての講座への参加は難しい」「具体的な支援方法知りたい」「一人で考えるよりチームで考えることが重要」等の参加者からのニーズや令和3年度の地域ケア会議からの課題を踏まえ、令和4年度では2回講座を開催し、支援困難となった要因の分析や、課題をアセスメントする際の考え方、具体的な支援方法を深め、さらに多職種交流会を実施して関係者どうしの顔の見える関係づくりを通じた連携強化を図られており、PDCAサイクルを活用した継続的な取組みとなっている。</p> <p>今後も精神保健福祉相談、精神疾患困りごと共有部屋 (MSC) の積極的な活用や地域ケア会議の開催、支援者が孤立しないために関係づくりへの取組みを引き続き期待している。</p>

# 課題対応取組み報告書

名称	都島区北部地域包括支援センター
提出日	令和 5 年 6 月 30 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ( )	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 (居場所づくり等) <input checked="" type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	健活測定会	
地域ケア会議から 見えてきた課題	長期化するコロナ禍で高齢者の外出や社会参加が低下するため、心身の状態が低下し要介護リスクが高まっている。 地域の行事や通いの場は休止状態が続き、安全に徒歩圏内で参加できる社会資源がない。高齢者の自立支援を維持し、重度化防止を防ぐためにも、高齢者の健康への自助意識を高め、安全に通える地域の通いの場の継続とさらに発展させる必要がある。	
対象	地域住民	
地域特性	公営、民営による大規模高層住宅群も多く、北部圏域全体の8割近くを集合住宅が占めている。JR城北公園通駅の開業で市外からの人口流入が増える一方、経年が目立つ集合住宅では高齢化が進み、町会や自治会加入は年々減少、コロナ禍もあり地域で見守り支援の難しさ、徒歩圏内の通いの場の少なさがある。	
活動目標	・北部圏域全域の高齢者が継続的に健康づくりに取り組めるよう、友渕、毛馬地域の「健活測定会」に加え、地域からの要望もあり、薬剤師会と連携しながら内代・高倉・大東地区で「出張健活」を開催していく。 ・引き続き「オンライン健活」を開催し、より多くの高齢者に健康に関する情報と地域包括支援センター（以下「包括」という）や認知症初期集中支援チーム（以下、「オレンジチーム」という）等の相談窓口の周知を行う。	
活動内容 (具体的取組み)	①健活測定会 ・開催日時：第2金曜日（10:00～12:00, 13:30～15:30） ・実施場所：ウエルシア薬局都島友渕店、都島毛馬店 地域開放スペース ・実施回数：6回（友渕店：4月・9月・2月、毛馬店：5月・10月・3月） ・参加人数：延べ54名（平均9名）※定員12名 ・活動内容：測定（体組成、血圧、骨強度、握力、ロコモ度テスト）、相談（栄養、薬） 包括、総合相談窓口（ランチ）、都島オレンジチームの周知活動および相談会実施 ②オンライン健活 ・実施回数：3回（8月・1月・3月） ・参加人数：延べ24名（平均8名） ・活動内容：8月→薬剤師による薬に関するミニ講座 1月→薬剤師による聴力に関するミニ講座 3月→歯科医師による口腔に関するミニ講座 ③出張健活 ・実施回数：5回 ・実施場所：高倉地区：6月・11月（みゆきコミュニティ） 大東地区：7月・12月（大東福祉会館） 内代地区：1月（市営内代第2住宅集会所） ・参加人数：延べ54名（平均10名） ・活動内容：測定（体組成、血管年齢、ベジチェック、ロコモ度テスト）、相談（栄養、薬）	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	①健活測定会 ・継続参加者：毛馬店 約8割、友渕店 約7割 → 健康意識の高い高齢者が参加する地域の通いの場として定着している。 ・参加者は運動だけでなく栄養に関する意識が高く、健康づくりに大いに役立っている。 ・継続参加者の約7割が介護保険未申請。1年後も介護申請には至らず、健康状態を維持できている。 ②オンライン健活 ・参加者の9割は介護保険未申請。健康への意識が高く、日頃から自発的に健康づくりに取り組んでいる。 ・介護保険サービスを必要としない元気な高齢者に包括やオレンジチームを周知する機会になった。 ③出張健活 ・参加者の8割は介護保険を必要としない元気な高齢者であった。 ・参加者の多くは健康づくりに関して栄養面を意識する人が少なく、運動を意識した参加者が多かった。 ・参加者から測定内容を増やしてほしい。交通アクセスが良くてわかりやすい場所で開催した方が参加しやすいという意見や要望があった。	

<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康づくり＝運動という認識の参加者が多く、更なる健康寿命の延伸に繋がるために、栄養面を含めた正しい情報や健康づくりの方法の周知が必要である。</li> <li>・「健活測定会」、「出張健活」の需要はあるが、元気な高齢者は雑誌やテレビ、インターネット等で健康に関する様々な情報を得ているため、令和4年度実施した「出張健活」の内容では、継続的な参加につながらない。</li> <li>・測定器具の種類を増やすには、今回の会場ではスペースが足りない。また、より多くの住民が参加できるように利便性や会場の知名度、開催時期を検討する必要がある。</li> </ul>
<p>※以下は、区運営協議会事務局にて記入</p>	
<p>区地域包括支援センター 運営協議会開催日</p>	<p>令和 5年 7月 19日 (水)</p>
<p>専門性等の該当 (※該当個数は問わない)</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 地域性      <input checked="" type="checkbox"/> 継続性      <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性      <input checked="" type="checkbox"/> 専門性      <input checked="" type="checkbox"/> 独自性</p>
<p>評価できる項目（特性） についてのコメント</p> <p>* 今後の取り組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。</p>	<p>地域での見守り支援の難しさ、徒歩圏内の通いの場が少ないという地域の特性、さらにコロナ禍による影響に対する取り組みであり、薬局、薬剤師会や歯科医師会と連携しながら経年的に取り組んでおられる。地域のニーズをとらえて、地域住民が継続的に健康づくりへ取り組みやすくするために活動の場を広げ、出張健活やオンライン健活も開催されており、発展された取り組みである。「継続参加者のうち介護保険認定未申請者が1年後も介護保険認定申請を必要とせず、健康状態を維持できている。」「介護保険サービスを必要としない元気な高齢者に包括やオレンジチームを周知する機会となった。」という成果から自立支援・重度化防止、健康寿命の延伸に向けて取り組みがなされていると考える。</p> <p>今後も引き続き、測定データの分析や地域のニーズから、測定内容の調整、必要な健康づくりへの情報発信への取り組みを期待している。</p>

# 課題対応取組み報告書

名称	福島区地域包括支援センター
提出日	令和 5 年 6 月 20 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ( )	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 (居場所づくり等) <input checked="" type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	出張相談会の新たな展開と顔の見える関係づくり	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・認知症の進行に伴い、権利擁護が必要な高齢者が増加している。今後自宅に帰れず行方不明になるケース等の更なる増加が見込まれる。 ・コロナ禍で高齢者食事サービスなどの事業が中止され、交流の場が減っている。閉じこもりがちになり、足腰の筋力や意欲低下する高齢者が増えている。	
対象	地域住民及び関係機関	
地域特性	大阪市の北の中心部に隣接し、区内に9つの駅を有し、企業や商店街・大規模小売店も多く、生活するうえでの利便性が高い。次々と建設されるマンションに入居する若い世代が増加している中、古くから区内に住み、時間の経過とともにひとり暮らしの生活へと変化していく世帯も増加している。	
活動目標	・認知症になっても安心して暮らし続けられるまちづくり ～認知症の理解を深めるための認知症啓発活動の強化～ ・出張相談会を通じての住民交流と地域包括支援センター（以下「包括」という）、認知症初期集中支援チーム（以下「オレンジチーム」という）、総合相談窓口（以下「ランチ」という）の周知広報 ・早期発見、早期支援につながるよう地域での連携先を増やす	
活動内容 (具体的取組み)	【認知症の理解を深めるための認知症啓発活動の取組み】 ・アルツハイマー月間での認知症啓発パネル展示 ①区役所1階ホール「認知症の人を支えるまち福島～世界アルツハイマー月間～」展 9/12～9/22実施。 ②福島図書館「『認知症』～本で知ろうパネルで学ぼう～」展 8/6～10/30実施。 ・福島区健康展2022 (10/22) 認知症チェックと認知症に関するパネル展示を実施。 ・「オレンジフェスタinふくしま」開催 (10/8) グループホーム入居者（ちーむオレンジサポーター）による駄菓子屋サロン・認知症サポーター養成講座・認知症当事者の方のメッセージ上映ブース・相談ブース、パネル展示等を実施。 ・区民講座「できていますか？認知症への備え、ご存じですか？認知症カフェ」（3/8） 区内の認知症カフェの紹介とコミュニティサロンブースの設置。 ・キャラバン・メイト連絡会の参画（5回）、認知症サポーター養成講座の参画(8回) ・集合住宅の集会所等、身近な場所での出張相談会は全地域16回開催。 うち6回オレンジチームによる認知症予防講座を開催。  【権利擁護の取組み】 ・認知症の進行に伴い、権利擁護が必要な高齢者が増加している。必要な方が制度を活用できるようケアマネジャーを対象に成年後見研修会「成年後見制度を活用し高齢者の権利を守る」を開催。(6/29) ・地域女性団体協議会役員を対象に虐待研修会を実施。(6/16) ケアマネジャーを対象に「自立支援のための虐待の気づき」をテーマに権利擁護に関する研修を実施。(1/23) ・消費者被害防止対策として、自動通話録音機貸与の紹介や特殊詐欺被害防止の啓発を実施。  【包括・オレンジチーム・ランチの周知広報と住民同士の交流の場づくり】 ・築年数の古い集合住宅の集会所等で出張相談会を開催。 全地域で実施（16回）したが、相談会のほか認知症予防講座や介護予防体操・歩行分析・箸袋作り等の住民同士の交流の場となるようプログラムを工夫し、住民同士が交流する機会となった。 ・定例出張相談会（区役所11回、商業施設10回、金融機関5回の計26回）において包括・オレンジチーム・ランチの周知広報を実施。  【地域・関係機関との連携】 ・上福島地域の地域活動者と包括を含む区社会福祉協議会職員で情報交換会を開催。 区社会福祉協議会が把握している上福島地域の気づきと福祉課題の情報共有を実施。(9/29) ・URコミュニティと合同で出張相談会を実施。(6回) ・住民から地域での相談先がわからないとの声があり、リバーサイド鷺洲で民生委員と合同の出張相談会を実施。(10/6) ・薬剤師会の勉強会で在宅医療・介護連携相談支援室、包括、オレンジチーム、生活支援コーディネーターの担当者が各事業説明と取組み報告を実施。(9/15) ・区保健福祉課生活支援担当と包括・ランチの連携強化のため、生活困窮者支援会議に参画。(3回) ・地域自立支援協議会と共催で区役所1階ロビーにて定例出張相談会を実施。(11回) ・イオン薬局と共催でイオン野田阪神店にて定例出張相談会を実施。(10回) ・大阪厚生信用金庫で年金支給日の午前に定例出張相談会を実施。(5回)	

<p>成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)</p>	<p>・認知症啓発のための取り組みを関係機関と連携して、積極的に実施することができた。「オレンジフェスタinふくしま」では、ちーむオレンジサポーターである当事者（グループホーム入居者）が駄菓子を販売した。いきいきとした表情で呼び込みや接客を行う当事者と笑顔で応える参加者で温かな雰囲気包まれた活気あるイベントとなった。このイベントを通して、認知症への理解を深めるために、知識だけではなく、互いを知ることが大切だと感じた。認知症になっても安心して自分らしく生活できる「支援をする人される人ではなくお互いに支え合う地域づくり」を目指して、引き続き、パネル展示・相談会・講座等による周知広報のほか当事者が参加するイベントを企画・実施していく。</p> <p>・全地域で出張相談会を実施することができた。築年数の古い集合住宅の集会室を中心に実施したが、マンション管理人や管理事務所と顔の見える関係ができ、その後マンション管理人から包括に連絡が入り、「介護保険の申請やサービスにつながるまでの支援を行ったケース」や「救急搬送を拒否しているが、衰弱しており心配だと管理事務所から連絡が入り、緊急で施設入所と入所までの支援を行ったケース」があった。相談会を実施することで早期発見・早期支援につながったことを実感し、アウトリーチの重要性を再認識した。また、コロナ禍で交流の場が少なくなっていたため、出張相談会開催時に認知症予防講座や体操・歩行測定等のイベントを実施し、住民同士がつながる場づくりに努め、参加者から好評だった。引き続き、住民同士のつながりの場づくりや包括・オレンジチーム・ランチの周知広報を行うため、地域に出向いての相談会を実施していく。</p> <p>・関係機関連携として、生活困窮者支援会議に参画し、区保健福祉課生活支援担当・包括・ランチで情報共有や生活保護制度の勉強会等を行い、顔の見える関係づくりと職員のスキルアップを図った。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>・マンション住まいの高齢者が増えており、特にひとり暮らし高齢者は孤立化しやすい。</p> <p>・「高齢者と障がいを抱える子の世帯」や「自宅がゴミで溢れかえり室内環境が悪化している」等の複合的な問題を抱える高齢者世帯の増加。</p>
<p>※以下は、区運営協議会事務局にて記入</p>	
<p>区地域包括支援センター運営協議会開催日</p>	<p>令和5年7月10日（月）</p>
<p>専門性等の該当 (※該当個数は問わない)</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 地域性    <input checked="" type="checkbox"/> 継続性    <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性・拡張性    <input type="checkbox"/> 専門性    <input checked="" type="checkbox"/> 独自性</p>
<p>評価できる項目（特性） についてのコメント</p> <p>* 今後の取り組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。</p>	<p>【地域性】 地域女性団体協議会への虐待研修会や集合住宅等での出張相談会、定例出張相談会等を実施していることは、「地域のニーズ・要望を発端とし、地域の力を活かして取組んでいる」「地域住民や地域の関係機関と連携して取組んでいる」として評価できる。</p> <p>【継続性】 出張相談会の継続的な実施により、マンション管理人等との顔の見える関係等ができたことで、介護保険サービス利用や衰弱した人の緊急対応につながったということは、「PDCAサイクルを回した継続的な取組みにより、一定の成果がみえてきている」として評価できる。</p> <p>【浸透性・拡張性】 出張相談会の継続的な実施により、マンション管理人等との関係が構築できてきたということが、「他職種の支援関係者へと拡大し、さらに活動の進化がみられる」として評価できる。</p> <p>【独自性】 出張相談会は、他区と比較して、より多くの企業・団体・関係機関を巻き込み、また、全地域で開催するなど、他区よりも広域で展開しており、「他では見られない先駆的な取組みと認められる」として評価できる。</p> <p>【今後の取り組み継続に向けての意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談件数の増加に伴って、担当者の負担も増していると思われるので、効率化を図る視点も持ち、業務を進めていただきたい。</li> <li>・幅広く各種の関係団体との活動体制が出来ており、協働できていることが分かったので、引き続き、拡大を図りつつ、取組みを進めていただきたい。</li> </ul>

# 課題対応取組み報告書

名称	此花区地域包括支援センター
提出日	令和 5 年 6 月 30 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ( )	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 (居場所づくり等) <input checked="" type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	男性の介護予防講座の継続開催	
地域ケア会議から 見えてきた課題	<p>経年的な課題として身近に相談できる人や声をかけてくれる人がいないことから支援困難になってから関わるが増えていると上っており、高齢者自身が介護予防に取組み、社会参加することが必要である。</p> <p>令和2年4月～令和3年3月まで介護予防支援新規契約者に地域活動等への参加状況や意向について聞き取りを行った結果、約7割が自立への取組みを行っている一方、約3割が地域活動への参加をしていない（あるいはやめた）と答え、コロナ禍で地域行事が中止になったことも要因の一つとなっていた。</p> <p>介護予防教室や地域行事などに男性参加者が少なく居場所がないため参加しにくいといった意見があるが、近くで人と出会える場所、運動ができる場所があれば参加してみたいとの希望があることがわかった。</p>	
対象	高見地域の介護予防に関心のある男性	
地域特性	民家が立ち並んでいる地域と高層マンション地域に分かれており、民家の立ち並ぶ地域は古くから高見に居住している住民が多くそれぞれが顔見知りでつながりが強い。高層マンション群では、若年層の入居者も多く近所づきあいがさほど濃厚ではない。戸建て地域は高齢化率が区平均を上回っている。	
活動目標	<p>男性向けの介護予防講座の継続実施にむけて関係機関や地域関係者と検討していく。</p> <p>長期目標として「地縁が無い男性の集まる居場所づくり。男性だけが参加出来る運動教室。」の実現に向けて会を継続していく。</p>	
活動内容 (具体的取組み)	<p>令和4年度も生活支援コーディネーターや地域関係者と協力して、男性向けの介護予防講座を継続開催した。</p> <p>男性に関心を持ってもらうために広く参加を呼びかけ、講座の目的を防災と関連付けて「災害時に自助・共助で避難できるための体づくりのための運動教室として幅を広げたり、老人会や班回覧で周知を行った。</p> <p>講座内容は理学療法士による講義と運動。運動の前後に運動機能の測定を行い、効果を測った。</p>	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<p>広く周知を行ったが参加者が少なかった。令和4年7月～12月まで5回開催。参加者：延べ13名</p> <p>男性介護予防講座及び集まる場としてのニーズはあったが、対象となる人は他の資源（フィットネスジムや老人クラブでの集まり等）を利用しており、新規講座への参加に繋がらなかったため今年度で講座は終了。</p> <p>令和5年度以降は生活支援体制整備事業がノウハウを引き継ぎ、区内全域を対象に開催していくこととなる。</p>	
今後の課題	<p>男性介護予防教室の開催に当たり、地域ニーズを把握して、関係機関や地域関係者とも協議しながら参加者も見込んで進めてきたが、実際には参加者が少なかった。</p> <p>今後、事業の企画・立案の際には、地域性も考慮しながら検討していく必要がある。</p> <p>地域包括支援センターでの総合相談等で、運動の必要がある男性を把握した時は、生活支援体制整備事業で開催している「男の運動教室」を案内していく。</p>	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 5 年 7 月 1 4 日 (金)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	<input type="checkbox"/> 地域性 <input type="checkbox"/> 継続性 <input type="checkbox"/> 浸透性 <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント  * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性に特化した取組みで、男性の社会参加を促す取組みになっている。</li> <li>・理学療法士と利用者で話し合いの中でメニューを組み立てていくことも独自性があると思われる。</li> <li>・利用者の身体の状態に合わせたメニューを立てており、専門性もある取組みである。</li> <li>・報告書記載の仕方については、もう少しわかりやすいものになるよう工夫が必要。</li> </ul>	